



## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年8月5日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社マルハニチロホールディングス  
コード番号 1334 URL <http://www.maruha-nichiro.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久代 敏男  
問合せ先責任者 (役職名) 広報IR部長 (氏名) 坂本 透 TEL 03-6833-0826  
四半期報告書提出予定日 平成25年8月12日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	202,903	4.0	3,625	△8.0	5,420	10.5	2,787	△60.5
25年3月期第1四半期	195,009	△3.9	3,939	△35.9	4,905	△20.6	7,057	165.9

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 7,123百万円 (△20.0%) 25年3月期第1四半期 8,908百万円 (132.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	5.64	5.29
25年3月期第1四半期	13.85	13.02

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	480,820	86,473	15.3
25年3月期	462,925	82,679	15.0

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 73,758百万円 25年3月期 69,561百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	3.00	3.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式（非上場）の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	845,000	4.3	18,000	50.1	16,000	20.8	7,000	28.5	13.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、〔添付資料〕P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期1Q	495,259,795株	25年3月期	494,535,159株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	445,948株	25年3月期	434,564株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期1Q	494,325,814株	25年3月期1Q	509,621,417株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスク等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、〔添付資料〕P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る 1 株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
第一種優先株式					
25年 3 月期	—	—	—	20.00	20.00
26年 3 月期	—				
26年 3 月期 (予想)		—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結損益計算書 第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融緩和をはじめとした経済政策により円安・株高の基調が続き、輸出の増加や消費者マインドの改善傾向等、景気が回復していく兆しが見られますが、海外においては欧州・新興国の経済の停滞や米国の金融政策の行方が世界経済に及ぼす影響、国内においては物価や金利の変動による経済への影響等の不安要因があり、先行きは不透明な状況となっております。

水産・食品業界におきましても、原材料価格の上昇に円安が加わり仕入・調達コストの上昇が続く一方で、販売価格への転嫁が遅れ、厳しい事業環境が続きました。

このような状況下で、当社グループは、中期3ヵ年経営計画「ダブルウェーブネクスト(2011-2013)」の最終年度を迎え、欧州水産物販売会社へ出資する一方、飲料製造会社の売却等、事業の選択と集中を進め、グループの資本・組織の最適化に向けた経営体制の強化に取り組んでおります。

当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は202,903百万円(前年同期比4.0%増)、営業利益は3,625百万円(前年同期比8.0%減)、経常利益は5,420百万円(前年同期比10.5%増)、四半期純利益は2,787百万円(前年同期比60.5%減)となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 水産事業

水産セグメントは、国内外の漁業・養殖事業、すりみの生産販売を中心とした北米事業、海外調達ネットワークを持つ水産商事事業、市場流通の基幹を担う荷受事業、及び市場外流通を受け持つ戦略販売事業から構成され、国内外の市場動向を注視しながらお客様のニーズに対応した的確な買付販売と加工事業の強化により、収益の確保に努めました。

漁業・養殖事業では、マグロはえ縄漁業、及びメロ漁業は低迷したものの、まき網事業のカツオ漁業が好調に推移し、漁業事業は増収増益となりました。一方、養殖事業は、マグロの販売数量減により減収減益となり、漁業・養殖事業全体では増収減益となりました。

北米事業は、新物すりみの販売遅れ、助子の生産減、すりみ・助子の単価下落、及び前期のベニザケ・マスの貧漁による取扱減により減収減益となりました。

水産商事事業は、鮭鱒をはじめとする冷凍魚全般の相場の上昇及び荷動きの好転、エビの品薄による相場上昇と順調な販売が続いたこと等により、増収増益となりました。

荷受事業は、引続き取扱量の減少に歯止めがかからないものの、前期に発生したチリ産鮭鱒等の相場損の解消、及び在庫圧縮による経費削減等により、減収増益となりました。

戦略販売事業は、量販店・生協向けの販売が全般に好調に推移したものの、外食、中食向けのエビ加工品、寿司ネタ商材の仕入価格の大幅な高騰により、増収減益となりました。

以上の結果、水産セグメントの売上高は119,317百万円(前年同期比1.1%減)、セグメント利益は2,310百万円(前年同期比14.2%増)となりました。

#### 食品事業

食品セグメントは、市販用及び業務用冷凍食品の製造・販売を行う冷凍食品事業、缶詰・フィッシュソーセージ・ちくわ・デザート・ペットフード等の製造・販売を行う加工食品事業、畜産物・飼料を取り扱う畜産事業、化成品・調味料・フリーズドライ製品の製造・販売を行う化成品事業、及びアジア・オセアニア事業から構成され、お客様のニーズにお応えする商品の開発・製造・販売を通じて収益の確保に努めました。

冷凍食品事業は、市販用新商品の販売が好調に推移したものの、円安や原料高等により利益面で苦戦を強いられました。しかし、前年第2四半期から連結子会社となったヤヨイ食品株式会社の収益が、第1四半期で計上された結果、増収増益となりました。

加工食品事業は、缶詰等の販売が好調に推移したものの、売却した飲料製造会社の連結除外による影響等により減収、デザートの新ブランド「フルティシエ」のテレビコマーシャルによる広告宣伝費増、及び缶詰における原料高や販売促進費増等により減益となりました。

畜産事業は、輸入食肉の取扱い増加、及び国内加工品の生産・販売が順調に推移したことにより増収となりましたが、円安による仕入価格の上昇分の販売価格への転嫁が遅れたため減益となりました。

化成品事業は、医薬品用プロタミンの販売は好調に推移しましたが、乾燥食品関連の販売不振により減収となり、自社工場の稼働率を改善して増益となりました。

アジア・オセアニア事業は、タイにおいて生産された冷凍食品の日本市場向け販売、缶詰の北米・オセアニア・日本向け販売が好調に推移したことにより増収となりましたが、カツオ・エビ等の原料高により減益となりました。

以上の結果、食品セグメントの売上高は78,742百万円（前年同期比14.0%増）、セグメント利益は1,571百万円（前年同期比31.2%減）となりました。

#### 保管物流事業

お客様の物流コスト削減による在庫圧縮の傾向が続くなか、水産物をはじめ畜産品や冷凍食品の集荷営業活動を行いました。

入庫数量及び出庫数量はいずれも前年同期並みとなりましたが、期首より続く在庫水準の低迷に加え、保管料単価の安い貨物の比率が上昇したことから、保管物流事業の売上は減少いたしました。

輸配送事業等の周辺事業も荷動き低迷の影響により売上が減少し、保管物流セグメントの売上高は3,826百万円（前年同期比1.9%減）、セグメント利益は326百万円（前年同期比7.6%減）となりました。

#### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は480,820百万円となり、前連結会計年度末に比べ17,895百万円増加いたしました。これは主として売上債権及びたな卸資産の増加によるものであります。

負債は394,347百万円となり、前連結会計年度末に比べ14,102百万円増加いたしました。これは主として仕入債務及び借入金の増加によるものであります。

少数株主持分を含めた純資産は86,473百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,793百万円増加いたしました。

#### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月7日に公表しました平成26年3月期の通期の業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### (税金費用の計算)

一部の連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,247	11,525
受取手形及び売掛金	103,164	110,408
たな卸資産	118,186	132,336
その他	18,726	16,631
貸倒引当金	△1,194	△1,152
流動資産合計	253,130	269,751
固定資産		
有形固定資産		
土地	58,844	58,079
その他(純額)	79,847	79,196
有形固定資産合計	138,692	137,276
無形固定資産		
のれん	14,801	15,032
その他	6,895	6,918
無形固定資産合計	21,697	21,950
投資その他の資産		
投資その他の資産	54,693	57,057
貸倒引当金	△5,288	△5,214
投資その他の資産合計	49,404	51,842
固定資産合計	209,794	211,069
資産合計	462,925	480,820
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,405	36,478
短期借入金	172,113	177,429
引当金	934	1,123
その他	38,040	41,873
流動負債合計	244,494	256,905
固定負債		
長期借入金	105,800	109,421
退職給付引当金	22,209	20,062
その他の引当金	309	317
その他	7,431	7,640
固定負債合計	135,750	137,442
負債合計	380,245	394,347

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,000	31,000
資本剰余金	29,683	29,683
利益剰余金	13,695	14,865
自己株式	△56	△59
株主資本合計	74,322	75,490
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,416	2,410
繰延ヘッジ損益	22	35
為替換算調整勘定	△7,199	△4,177
その他の包括利益累計額合計	△4,760	△1,731
少数株主持分	13,118	12,714
純資産合計	82,679	86,473
負債純資産合計	462,925	480,820



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	195,009	202,903
売上原価	167,240	174,548
売上総利益	27,768	28,354
販売費及び一般管理費	23,829	24,729
営業利益	3,939	3,625
営業外収益		
為替差益	353	1,196
雑収入	1,578	1,496
営業外収益合計	1,931	2,693
営業外費用		
支払利息	837	746
雑支出	126	151
営業外費用合計	964	897
経常利益	4,905	5,420
特別利益		
固定資産売却益	18	45
関係会社株式売却益	—	106
厚生年金基金代行返上益	8,570	—
その他	—	34
特別利益合計	8,588	186
特別損失		
固定資産処分損	46	58
事業整理損失引当金繰入額	2,002	—
その他	5	1
特別損失合計	2,054	59
税金等調整前四半期純利益	11,440	5,547
法人税等	4,319	2,473
少数株主損益調整前四半期純利益	7,121	3,073
少数株主利益	63	286
四半期純利益	7,057	2,787

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,121	3,073
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△624	1
繰延ヘッジ損益	△5	13
為替換算調整勘定	2,197	3,455
持分法適用会社に対する持分相当額	220	579
その他の包括利益合計	1,787	4,049
四半期包括利益	8,908	7,123
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,337	5,816
少数株主に係る四半期包括利益	571	1,306

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	保管物流 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	120,648	69,072	3,902	193,624	1,384	195,009	—	195,009
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,733	1,742	1,308	8,785	105	8,890	△8,890	—
計	126,382	70,815	5,210	202,409	1,490	203,899	△8,890	195,009
セグメント利益	2,023	2,283	353	4,659	164	4,824	△885	3,939

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料等の保管業、海運業、不動産業、ホテル業及び毛皮の製造販売業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△885百万円には、セグメント間取引消去31百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用が△916百万円含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	水産事業	食品事業	保管物流 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	119,317	78,742	3,826	201,887	1,016	202,903	—	202,903
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,321	2,624	1,255	9,201	109	9,310	△9,310	—
計	124,638	81,367	5,082	211,088	1,125	212,214	△9,310	202,903
セグメント利益	2,310	1,571	326	4,209	234	4,443	△818	3,625

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料等の保管業、海運業、不動産業及び毛皮の製造販売業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△818百万円には、セグメント間取引消去40百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用が△858百万円含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年7月29日開催の取締役会において、平成26年4月1日(予定)をもって、当社完全子会社である株式会社マルハニチロ水産(以下「マルハニチロ水産」)を存続会社として、当社、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント及び株式会社アクリフーズの6社合併を行う方針を決議いたしました。

今後、当社は平成26年1月開催予定の臨時株主総会において、合併契約の承認決議を得る予定です。平成26年3月に当社は上場廃止となる予定ですが、存続会社であるマルハニチロ水産は、平成26年4月、東京証券取引所にテクニカル上場する予定です。

なお、マルハニチロ水産は、合併に際して商号をマルハニチロ株式会社に変更する予定です。

本件に関する詳細につきましては、平成25年7月29日に開示いたしました「当社と子会社5社の合併に関するお知らせ」に記載しておりますのでご参照ください。